令和６年度 芸西小学校 学校関係者評価表　　学校教育目標 ： 「一人一人が元気でかがやく学校　～学び続け　仲間とともに　前にふみ出す児童の育成～」

研究主題　　： 「自ら問いをもち、協働的な学びを楽しむ子どもの育成」

Ａ：満足できる　Ｂ：おおむね満足できる　Ｃ：やや満足できる　Ｄ：課題も多く見直しが必要である

重点目標	長期経営目標	短期経営目標	主な取り組み ○付数字が具体項目	評価指標 下線部分が指標	年度末達成状況 下線部分が達成状況	自己評価	改善方策	学校関係者 講評	関係者評価
【学力の向上】	意欲的に 学ぶ子の育成	(1)「Basic ガイドブック」を活用した授業づくりを進め「学力」を保障する。 (2)「探究的な学び」を企図し、特色ある学校づくりを推進する。また、多様な学習機会を確保する。 (3)ICT を活用するとともに、ユニバーサルデザイン(UD)を意識した環境整備や授業づくりを行う。 (4)読書活動の質と量の向上を目指す。	(1)学力向上の取り組み ①Basic ガイドブックの活用。特に、「めあて・まとめ・ふりかえり」活動を重点化。 ②家庭学習の意欲付け、家庭への啓発実施。 ③全国学力調査や県版学力調査の分析と、習熟の弱い箇所の復習の実施。 (2)生活科・総合的な学習等の探究的授業づくり ①９年間のカリキュラムを作成・共有する。 ②探究的な学習となる授業づくり実践。 ③研究可視化の取り組み。研究通信発行・授業づくり関係の資料提示・研修等で、学年の取り組みを可視化し共通理解を図る。 (3)ICT の活用と、授業への UD の意識化 ①ICT 機器の授業活用。②校内研修の実施。③UD を意識した授業づくり。（板書や発話の認知心理学的側面への教員の意識向上。） (4)読書活動の充実 ①読書通帳や村立図書館からの貸出、利用呼び掛けを通して、読書冊数の向上を図る。	(1)Basic ガイドブックを用いた授業づくり ①「Basic」の授業での活用率:100% ②「家庭学習をしている」肯定的評価:85% ③県版･埼玉県版等の学力調査で全国平均を目指す。（国語-3p 以内、算数-6p 以内） (2)探究的な学習活動の実施 ①「９年間のカリキュラム構成への理解を深めた」という教員の肯定的回答 90%以上 ②質問紙調査で、「主体的に学習活動に関わること」への肯定的評価:70%。教員による児童の授業の様子等からの肯定的評価:80% ③授業の板書等の記録紹介。研究便り発行。 (3)ICT 機器の導入 ①ICT 機器をほぼ毎日活用:100% ②校内研修の月１回実施、若しくは校外研修の呼びかけ。UD 自己チェックリスト実施。 (4)読書活動の充実 ①目標冊数の達成。低学年(100 冊)、中学年(70 冊)、高学年(45 冊):それぞれ 70%以上。また、読書アンケートの肯定的回答:82%	(1)Basic 授業 ①Basic 授業:100% ②「家庭学習」肯定評価:74.5% ③高知県学力調査(12 月実施) 高知県平均と比較。 ・４年(国:＋3.2p 算:＋10.8p) ・５年(国:▲2.9p 算:▲11.5p) (2)探究的な学習 ・主体的に学ぶ: 90.3% ・村が好き: 96.8% ・板書紹介・研究便り発行済。 (3) ICT 機器 ・ICT 機器活用:100% ・ICT の研修も一定、実施済 ・UD チェック表による指導の振り返りの実施。 (4)読書活動 ・読書目標の貸出冊数 42.8%（２学期末）。 ・読書アンケートの肯定的回答:88.3%	B	・「生活・総合」の学習は、国語科等の作文や発表等の学習に好影響を与えている。また、村への関心・愛着の向上にも大きく寄与しており、次年度も取り組みを継続する。 ・ICT 活用も、取り組み継続。 ・読書活動も取り組みを継続するが、デジタル画面(文書)を読む機会の増大を受けた活動や評価規準の修正を行う。 ・算数科に関して、３学期から開始した以下の取り組みの発展的継続を薦める。 ①東部教育事務所の算数科の支援訪問要請 ②放課後加力学習の継続 （令和６年度:51 名参加） ③他校への研修参加	・教科学習の面でも小中連携を進めていければ良いと考える。 ・板書(黒板の文字等)の仕方が、分かりやすく丁寧に書かれている。 ・「主体的な学び」「村が好き」の指標が高いこと等からも、探究的な学びとなる授業づくりができていると感じる。	B
【心の教育】	自分と友だちを 大切にする子の育成 居心地の良い 学校・学級づくり	(1)自己肯定感を高める取り組みとあわせ、自他共に大切にする児童の育成を図る。 (2)学校や学級への肯定的意識・充足感を高め、学級・学校で元気に活動できる場を保障する。 (3)不登校の抑止・改善となる児童の状態・教育的ニーズに応じた支援の充実を図る。	(1)道徳教育の充実 ①「高知の道徳」を授業中や、家庭と連携して取り組む。「フレンズカード」の活用。 (2)児童の自己有用感・自尊感情・他者への共感的理解を高める活動の計画 ①児童主体の活動(係活動等の特別活動)に取り組みキャリア教育の視点から活動を計画。 ②児童への肯定的・支持的な声かけの励行。 (3)児童の状態像・ニーズの把握 ①長期休業中等に校内研修会の実施。 ②外部専門家(SC・SSW 等)の支援会参加。 ③学級経営に関わる情報交換会の実施。	(1)道徳教育の充実 ①道徳アンケート「自分にはよいところがある」肯定的回答:86% (2)自己有用感・他者理解 ①②Q-U アンケート「学校生活満足群」:64%以上 (3)児童の状態像・ニーズの把握 ①年間１回以上の校内研修。 ②月１回以上の校内支援会の実施。 ③長期欠席児童:３人以内 新規長期欠席児童:０人　継続児童１名以内	(1)道徳教育 ①「よいところがある」肯定的回答:85.8% (2)自己有用感・他者理解 ①②Q-U アンケート「学校生活満足群」:64.7% (3)児童理解（２月 27 日現在） ①校内研修：夏季休業中実施 ②校内外支援会　計 17 回 ③長期欠席児童　：７人 内、新規児童:４人 別途、登校再開児童:１名	C	・心の成長の領域は、自尊感情や学級集団内への所属感等は良い水準を維持している。 ・長期欠席に対しては、人数のみに囚われるのではなく、①家庭や児童との繋がりの側面や、②「やる気・意欲」の側面を測定する指標を既存アンケートの中から新たに設け、教室で学びにくい児童の発見・予防に努めていくこととしたい。	・「人数」のみではなく、取り組みの内容が重要。他の指標が良いのでＢ評価とした。 ・児童や周りの人から聞くと、対応に疑問を感じる部分が多々ある。 ・「自分に良いところあり」の肯定回答が 80%を越えている。今後もポジティブな声掛けで自尊感情を育みつつ、家庭との繋がりも大切にして欲しい。 ・不登校の理由は不明瞭なこともあり対応は大変だが、安心できる居場所づくりに努めてもらいたい。	B
【健康教育】	心身ともに 元気な子の育成	(1)「睡眠・食事」等の基本的な生活習慣を確立する。 (2)自ら進んで体を鍛える児童を育成する。	(1)基本的な生活習慣に関わる指導 ①睡眠についての保健指導を継続し、早寝早起きへの意識付けを図る。 ②朝食の大切さの指導・啓発や、朝食を食べない児童を「生活カード」や「朝食アンケート」で把握し、個別に声かけを行う。 ③おいしい給食の提供と給食指導の充実。 ④家庭向け通信の発行。 (2)体力向上に関わる指導 ①体育授業での副読本の活用。 ②授業や朝の会等の業間での「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」の活用。	(1)基本的な生活習慣に関わる指導 ①生活調査から「早寝早起き」:64%以上 ②生活調査「朝食未摂取」:10%以下 ②③④朝食アンケート「朝食をとることは大切である」:90%以上 (2)体力向上に関わる指導 ①体育授業での副読本の指導例や、児童の振り返り欄等の活用:90%以上 ②体力テスト総合評価ＤＥ群の児童の割合:15%以下	(1)基本的な生活習慣 ①生活調査から 早寝:63%　早起き:68% ②生活調査「朝食未摂取児童」:３% ②③④朝食アンケート「朝食は大切である」:93.9% (2)体力向上 ①体育授業での副読本の指導例や、児童の振り返り欄等の活用:100% ②体力テスト総合評価ＤＥ群の割合:13.5%に改善	A	・健康教育に関しては、体育・食育等の各項目で良好な数値を保持しており、同様の取り組みを継続していくこととしたい。	・十分できていると思う。 ・運動会の実施は半日開催ではなく、１日開催が妥当ではないか。	A
【安全対策】 【危機管理】	災害から 身を守る子の育成 安全教育・安全管理が 充実した学校	(1)児童が自分で自分の命を守ることができる安全教育を実施する。 (2)安全指導、及び安全管理が定期的・組織的に行われている。	(1)防災教育の充実 ①「高知県安全教育プログラム」に基づく防災を中心にした授業を実施する。 ②校内避難訓練だけでなく校外の避難場所への避難の仕方を学ぶ。事前事後指導の充実。 (2)防犯・交通事故やインターネット犯罪等への意識の向上 ①交通安全教室・登下校等の防犯指導実施。 ②校内安全点検の励行。	(1)防災教育の充実 ①②１年間で、防災学習を５時間以上、避難訓練を５回以上実施。（校内避難訓練含む。） ①②学校評価アンケート「避難の仕方について」肯定回答:80%以上 (2)安全意識の向上(交通安全・防犯・SNS 等) ①交通安全教室・登下校等の防犯指導の実施。 ②校内安全点検を学期に１回は実施。	(1)防災教育 ①「高知県安全教育プログラム」授業、５回以上実施。 ②「避難の仕方が分かる」100% (2)安全意識の向上 ①交通安全教室・登下校等の防犯指導の実施。 ②安全点検:学期１回は実施。	B	・防災、交通事故防止、防犯の中で、防犯に関わる取り組みが弱い。不審者対策訓練や誘拐防止教室等、しばらく行われていなかった取り組みについても検討したい。	・取り組みもできており、指標も上回っていることから、Ａでも良い。 ・防犯面・保護者の意識、放課後の過ごし方を考慮するとＣ評定。	B
【保幼小中連携】 【保護者・地域連携】	保幼小の円滑な接続 小中連携の推進 地域に学ぶ子の育成	(1)就学前機関との円滑な接続を図る。 (2)生活科・総合的な学習の時間を基調としつつ、芸西中学校や地域と連携した学習活動を実践する。	(1)合同学習会・園内研修等への相互参加 (2)公開授業参加・文書の相互配布、行事への参加等による連携の推進 (3)地域と関わった学習活動の計画。行事や活動での相互交流	(1)(2)(3)校種間交流・連携 ①②教員(園児・児童生徒)による活動・行事や研修での相互交流。研究通信・家庭向け文書の相互配布。 ③地域の人材バンクや特産品等を生かした小中９年間の系統的な指導計画の編成周知。	(1)(2)(3)校種間交流・連携 ①②園児・児童・教員の交流を各学期実施。家庭向け文書の相互配布。 ③地域と関わる「生活・総合」学習を頻回に実施済。	A	・幼稚園児との交流は、拡大した。今後も園児が教室で座学を体験する機会を持ちたい。 ・人材バンクへの呼びかけを行い、新たに算数等の授業中に、児童への支援の機会を広げたい。	・関わってくれた地域の方への気持ちも伝わっていて良い。 ・幼小交流の回数が増加した。また、家庭向け通信の交流もでき、架け橋期への一歩となった。 ・人材バンクを活用した児童への学習支援を実現してもらいたい。	A

【業務改善】(働き方改革と職員のメンタルヘルス対策を計画的に実施する。）　教職員がこの学校に勤めて良かったとやりがいと誇りを持てる学校：(1)チーム学校・(2)ミドルリーダー育成・(3)校務分掌業務の見直し・(4)ICT デジタル化推進・(5)時間外勤務の削減・(6)若年教員育成指導